

2025年7月31日
株式会社三菱UFJ銀行

株式会社JTBと「サステナビリティ・リンク・ローン」変更契約を締結

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 ^{はんざわ じゅんいち}半沢 淳一）は、株式会社JTB（代表取締役社長執行役員 ^{やまきた えいじろう}山北 栄二郎（以下、同社））との間で、ローン・マーケット・アソシエーション^[1]等が定めたサステナビリティ・リンク・ローン原則に即した「サステナビリティ・リンク・ローン（以下、SLL）」形式によるコミットメントライン契約を2024年5月17日付で締結しておりましたが、今般、CO₂排出量削減に関する目標を追加設定する変更契約（以下、本契約）を締結いたしました。

SLL 原則では、借り手のサステナビリティ目標と連携したサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（以下、SPTs）を設定し、金利などの貸付条件とSPTsに対する借り手のパフォーマンスを連動させ、SPTs達成への動機付けを与えることで、環境的・社会的に持続可能な経済活動および経済成長を促進し、支援することを目指します。

本契約では、SLL 契約初年度に設定した3つのSPTsに加えて「CO₂排出量（Scope1、Scope2）」を新たに追加し、4つのSPTsを設定しています。また、毎年各SPTsの達成状況に応じて利率が変動するインセンティブを設けています。

同社は、地球環境の保全に最大限配慮した事業展開に努めており、全社的な脱炭素目標として2030年までに自社活動（Scope1、Scope2）のカーボンニュートラル、2050年までにサプライチェーン全体（Scope1～3）でのカーボンニュートラルの実現を目指しています。新たに追加設定したSPTsは、同社の中長期目標の実現に紐づく指標となります。

【設定したSPTs】

- ① 男女賃金差異
- ② 男性育児休業取得率
- ③ エンゲージメント指標「私は、会社の未来に希望を持っている」
- ④ CO₂排出量（Scope1、Scope2）

また、本契約は、株式会社日本格付研究所（JCR）より、サステナビリティ・リンク・ローン原則への準拠、設定したSPTsの合理性について第三者意見を取得しています。

地球を舞台に、人々の交流を創造し、平和で心豊かな社会の実現に貢献することを企業理念に掲げる同社は、長期ビジョンの「ありたい姿」として「サステナブルな社会の実現に貢献し、従業員のプライド・モチベーションが向上している」ことを掲げ、サステナビリティ活動を事業戦略に組み込んでいます。本契約を通じて、同社サステナビリティ方針における「限りある地球の資源と生物

多様性の保全にむけて」「地域社会におけるサステナビリティの推進」「安心して働けるサステナブルな職場環境を目指して」に掲げる取組内容を着実に実行し、世界のツーリズムをけん引する企業グループとして、地球を舞台に人々の交流を創造し、平和で心豊かな社会の実現に貢献することを目指します。

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取組を進めています。引き続き、お客さまのサステナビリティの取組を支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

[1] 欧州、中東、アフリカのシンジケートローン市場の流動性、効率性、透明性を改善することを目的とした協会。英国に本拠地を置き、欧州・中東を中心に 65 ヶ国以上約 850 機関が加盟。

以 上